

将来推計等の全体像

①外国人に係る将来推計

例)
・将来の在留外国人の人数
・将来の外国人労働者の人数
...

等



②外国人の受入れが社会に与える影響の分析

例)
①の推計を受けて、
・社会保障への影響分析
・教育への影響分析
...

等

⇒上記①②の結果を踏まえ、政府全体で外国人の受入れの基本的な在り方を検討

推計の手法等のイメージ

- ・ 例えば、以下のような内容で進めることが考えられるか。
 - ✓ 推計の対象時点 ⇒おおむね2040年まで
 - ✓ 推計の対象項目 ⇒在留外国人の性・年齢・在留資格・国籍等別の人口や就業者数
 - ✓ 推計の前提となる将来の状況(シナリオ) ⇒入国超過数が今後も増加、現状維持、減少等

※ その他、政府統計等との整合性を確保しつつ進める。

影響分析の対象分野・手法等のイメージ

<対象分野・観点>

- ・ 例えば、①経済 ②労働・社会保障等 ③地域社会の3分野を対象とすることが考えられるか。
- ・ 上記の分野とする場合、主要な観点として、例えば以下のような観点についてメリット・デメリットの両面から分析することが考えられるか。

①経済⇒経済成長、イノベーション、財政面への影響 等

②労働・社会保障等⇒雇用・賃金、医療・介護、年金、生活保護、教育への影響 等

③地域社会⇒文化・慣習・宗教の違いも踏まえた地域の治安・文化・現場への影響 等

<分析の手法>

- ・ 例えば、以下のような手法で進めることが考えられるか。
 - ✓ 国内外の主要な先行研究、国内の外国人の状況に関する各種データの把握
 - ✓ 外国人を多く受け入れている自治体等に対するヒアリング

⇒これらの情報も活用し、外国人の将来推計の各シナリオについて、各分野にどのような影響が生じるか、各分野の関係府省庁の協力の上、実施中(又は予定)の施策も踏まえつつ分析。